

『 ピア・サポートの輪を広げよう 』

藤枝市立藤枝中央小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	【第1ステージ】 ともだちいっぱいステージ ・ペア出会いの会（遠足） ⇒6年生から1年生にプレゼント	①出会い	本校におけるピア・サポートの位置づけを提案（職員会議）
5月	・一年生を迎える企画 児童会を中心に、1年生に向けたメッセージカードを集めて掲示・放送		
6月	【第2ステージ】 チャレンジステージ ・ふれあいタイム（4～6年生）	②聴き方	ピア・サポート活動の呼びかけ
7月			
8月			
9月			
10月	【第3ステージ】 レベルアップステージ ・運動会	③自己表現	ピア・サポート活動の呼びかけ
11月	・自然教室（5年生）		
12月	・修学旅行（6年生） ・校内音楽会		
1月	【第4ステージ】 ありがとうステージ	④自分の気持ちへの対処・対応	ピア・サポート活動の呼びかけ
2月			
3月	・6年生ありがとうの会		今年度の振り返り 来年度に向けて

ピア活動（ペア学年で遊びや集会を行う中で、互いのよさを見つけ合う。）

日々の生活（相手の気持ちに立って友だち、異学年と関わる。「いいところを見つけ」等お互いのよさを見つけ認め合う。）

・教師がピア・サポートの視点で価値付け。
・見える化。

1 本校のピア・サポート

本校の子どもたちは、明るく活発で、思いやりをもって友だちと接することができる子が多い。その反面、仲の良い子どもだけで関わることも多く、普段あまり関わりがない子や、他学年との関係が希薄になりがちな様子も見られる。そこで、本校では、子ども同士の関わりに重点を置き、前年度に引き続きピア・サポートの輪を広げる活動に取り組んでいる。

子ども同士の関わりにおいて、声を掛け合うことが関係づくりの第一歩となる。そこで、「あいさつ」を大切にし、仲の良い友だちだけでなく、登校班の仲間にも進んで挨拶ができるようにする等、子どもたちが独自の企画を考えて取り組んできた。

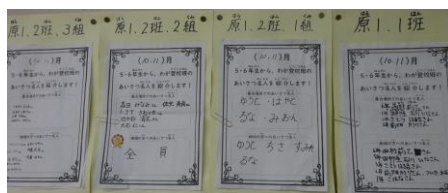
また、本校では、たくましさや心の豊かさをもった「自分よし」、相手の気持ちを尊重し、相手への感謝や思いやりの心をもった「相手よし」、人と人との繋がりを大切にし、みんなが支え合うあたたかな環境づくりに貢献する「みんなよし」の「三方よしを実行する子」を目指す子ども像としている。子どもたちの間では、「三方よし」が合言葉となり、学校生活の中で判断・行動することが日常化している。特に「みんなよし」の視点は、あたたかで支え合う人間関係づくりを強くし、ピア・サポートの輪を広げることに大きく影響している。

以上のことから、本校では「三方よし」と「あいさつ」に重点を置いて、子どもたちにピア・サポートの輪を広げている。

2 特徴的な活動

児童会を中心としたピア・サポート活動【提言 6、7】

子どもたちの人間関係づくりの第一歩として、あいさつ活動を企画した。児童会が毎朝、各クラスに挨拶に行く。他学年が来ると、緊張してなかなか挨拶が返せない子もいるが、回を重ねるごとに、次第に挨拶を返す子どもが増えてきた。普段関わりがないと、挨拶を交わすことも難しい子もいるため、このように挨拶から関わりを築いていくことは大切であると感じた。また、6年生を中心に高学年が登校班で集まり、日々の挨拶を振り返り、進んで挨拶をしてくれる子の名前を校内に掲示した。さらに、5年生では、あいさつ実行委員が中心となり、学年で目標を決め、より多くの人と挨拶で関わりを広げていけるように取り組んだ。児童会の姿を始めとし、子どもたち自身が進んで挨拶をしようとする気持ちや、挨拶をきっかけに関わりをもとうという気持ちを育てることができた。



3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度は、「あいさつ」で輪を広げる取り組みに対して、児童会だけでなく6年生や5年生も自分たちでできる企画を考え、取り組むことができた。また、「三方よし」をもとに、友だちや中央小学校に通う仲間たちの良いところを見つけ、自らの生活にも生かそうとする姿も多く見られた。

来年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、触れ合いながら仲を深めたりお互いの良さを知ったりする活動に制限があると思われる。しかし、挨拶やカードなど、言葉や文字でピア・サポートを伝えたり、「三方よし」を合言葉に生活を振り返ったりすることで、日常生活が多くの人によって支えられていることに気づき、「自分も友だちを支えよう」という意欲を高められるようにしたい。そして、家庭や地域までピア・サポートを広げることができるよう活動を考えていきたい。